



目次	報告 女性プラザ祭2013講演会…… 1	インフォメーション…………… 4
	女性プラザ祭2013レポート…………… 2・3	

報告 女性プラザ祭2013講演会

昨年11月14日に開催した女性プラザ祭2013では、3.11東日本大震災のつらい経験から立ち直ろうとしている飯舘村の状況と、伝えて欲しい大切な教訓をお聞きするために、福島大学教授で福島県男女共生センター館長でもある千葉悦子さんをお招きして、講演会を開催しました。以下に講演の一部をご紹介します。

「福島の今、そして未来へ 女性こそ主役に～「までの力」飯舘村から学ぶ」

福島大学行政政策学類教授 千葉悦子さん

3.11東日本大震災以降、北海道の皆様からは様々なご支援と励ましをいただきありがとうございました。

講演テーマにある「までの（真手）」という言葉をご存知ですか？「ていねいに」という意味でカタカナ語では「スローライフ」。ゆっくり自然と調和しながら生きていくような環境をつくらうということです。飯舘村は「までの」という言葉を使って村づくりを行ってきましたが、東日本大震災に原発事故も加わり、全村避難の状況です。

私は福島県男女共生センターの館長も務めておりますが、震災後はこのセンターに浪江町役場が常駐する状況が1年半あり、非常事態ということで予定していた事業が全て中止になりました。その中でビッグパレットふくしま（福島県内で最大の避難者（2千数百名）を収容したコンベンションホール）避難所の中に女性専用スペースを作った取組をご紹介します。

4月17日、県庁運営支援チームが「着替える場所がない」「男性の目が気になる」など女性たちの声をキャッチします。いらだち、暴力沙汰。衛生面の不安もありました。

4月23日、県庁運営支援チームの要請を受け、センターは運営支援・体制づくりを開始。5月に入り、女性団体による運営が開始されます。「郡山市婦人団体協議会」「女性の自立を応援する会」「しんぐるまざあず・ふぉーらむ・福島」など多様な避難者に応じて

様々な団体に運営を預け、男女共同参画の専門機関として、他機関等と連携し行ったわけです。

お話したいことは、被災当事者は頑張っているということ。そして、日常的な男女共同参画の取組がやはり大事であることをこの2年で実感したことです。

非常事態だからと急に私たちに力が出るわけではなく、日頃の積み重ねが生きてきます。

原発事故は不条理なものだと思います。飯舘村に限らず、福島の人たちは絶望的な状況にありながら、その中で希望に向けた様々な取組を皆さんの協力・支援を受けながら始めています。バラバラになった家族がもう一度戻るとはできるのか。「までの生活」は取り戻せるのか。たちはだかるものは大きい。でも希望を語る場とそれを形にする実践、これをたくさんつくるのが大事だと思います。そのためには色々な方たちの力をお借りしたい。

皆さんにお願いしたいのは、いまだ原発事故は収束していないということ。福島の問題を自分たちの問題として捉え何をすべきか、何が必要なのか、ぜひそれぞれをお考えいただければ。新しい社会をつくっていくことが福島にとっての一番の励ましになるのではないかと思います。



冬が始まる頃の11月半ば、開館記念事業「女性プラザ祭2013」を開催しました。

初日の1日(月) DVD上映会はいにくの大雪で参加者数が少なく、北海道の冬の事業開催の難しさを感じましたが、12日(火)のオープニングコンサート以降の事業にはたくさんの方にご来館いただきました。

今年のテーマは「災害に学び、まちづくりに活かそう」。表紙でご紹介した千葉先生のご講演と「女も男もワイワイセッション」では道内で男女共同参画の視点で防災やまちづくりについての第一人者である北海道教育大学札幌校の佐々木教授からお話をお聞きしました。

以下に女も男もワイワイセッションの様子を中心にご紹介します。



女も男もワイワイセッション

「みんなで考えよう！いざは普段なり —男女平等参画で防災・減災・まちづくり—」

北海道教育大学札幌校 教授 佐々木貴子 さん

「ゆ〜らゆ〜ら長く揺れる地震はなんの地震？」「津波の地震」「そういう地震を感じたらどうするの？」「坂を登って高いところへ逃げるの」「いつもあなたとお母さんはいっしょじゃないんだよ。自分の命を守るのはあなた自身よ。」と小さい時に聞いた言葉は今も頭に残っています。

釧路で生まれ育った私の家は高台にありました。地震が起きると、外へ出て隣近所に声を掛け、無事を確認しあう。そして電気は点けたまま寝て、親戚が逃げてきたら遠慮しないで訪ねられるようにしておく。

そういう地域のつながりがテレビの普及とともになくなってしまったように思います。

東日本大震災後、8月にその地震を経験した子どもたちから話を聞く機会がありました。子どもたちは、3つの伝えたいこととして話してくれました。

1つ目、「想定外に対応できる力を身につけるには、普段のことを真剣に行うこと。普段をしっかりしてこそ、大事な時に普段以上の力が出せる。これは避難訓

練だけでなく、何事にも通じる本当である。」2つ目「大人を信じ、お年寄りを大切にしよう。その地域に長く生きた人の知恵には、絶対に意味と価値がある。」そして3つ目は、「語り継ぐことの大切さ。そうやって語り継がれたものがいつか誰かの命を救うかもしれない。」この3つの言葉は私の言葉ではなく、子どもたちからの言葉です。

東日本大震災後にそれを踏まえ災害対策基本法が見直されました。新たに基本理念として、住民一人一人が自ら行う防災活動(自助)、自主防災組織その他地域における多様な自主的に行う防災活動を促進する(共助)が盛り込まれました。また、教訓伝承、防災教育の強化や多様な主体の参画による地域の防災力向上などが謳われています。

天災は忘れた頃にやってくる—という言葉がありますが、災害に対する人間の基本的な心理として「正常化の偏見」があります。自分の身に迫っている危険を根拠なく過少評価してしまう性質です。また「認知的

オープニングコンサート／11月12日

(主催 北海道立道民活動センター)

ヴァイオリン能登谷安紀子さんとクラシックギター藪田建吾さんによるミニコンサートを開催しました。

プラザ祭期間には、その他DVD上映会「ヘルプ心がつなぐストーリー」の開催、バザー、即売会、パネル展などフロアを使って多彩な事業を行いました。



トーク・セッション／11月15日

(主催 札幌女性問題研究会)

「北海道社会とジェンダーを考える」

北海道社会とジェンダーという視点から労働・教育・福祉・DV・セクハラについて論じられた本が札幌女性問題研究会編で明石書店から刊行されました。この本に対する若い研究者からのコメントを中心に進められた今回のトークセッションは、男女平等参画を進める上で貴重な情報交換の場となりました。



不協和理論」といって、自分の中にあった情報（認知要素）」と新たに与えられた情報が矛盾する時、自分にとって変えやすい一方に内容を変え協和させようとする性質もあります。

防災意識が薄く知識や訓練がない人はいざ災害が起こったとしても適切な行動をとることはできません。日頃から知識と訓練がある人は、理性的に判断し自分の命を守る適切な行動が出来ます。

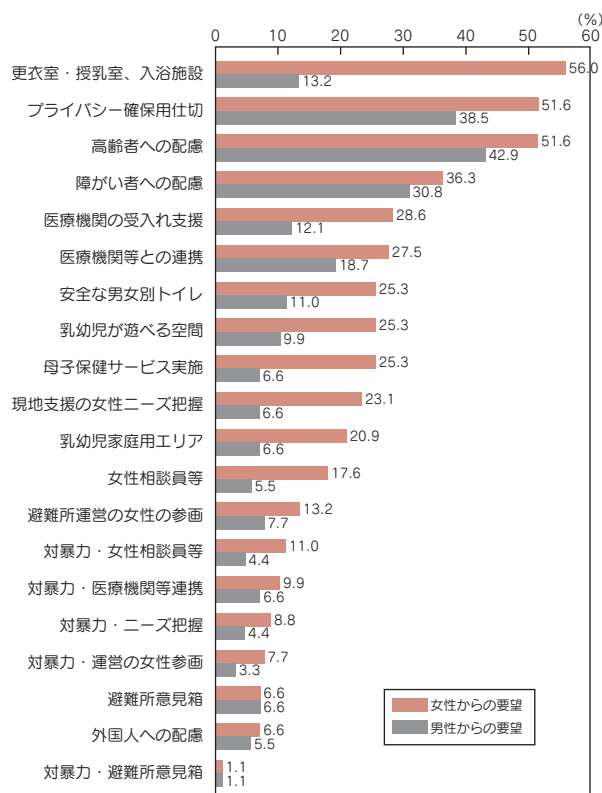
「いざは普段なり」を日常で実行する場合は、例えばベットの下に履き物を置いておくとか、倒れやすいタンスのそばで寝ない、玄関の靴はいつでも履いて出られるように揃えておく。避難所に持って行く物、水・食料・防寒に必要なものなど、もし起きたらをイメージし普段から準備することが重要です。

生活の知恵など大事なことは、私達は上の年代から伝えられましたが、私達の世代はそれをきちんと下の世代に伝えているでしょうか？私自身は伝えてこなかったという反省を持っています。生活の知恵や地域の災害防災のことを70代80代の方は50代60代の人に伝え、その人たちは、さらに下の世代へ伝えてください。小さい子どもに、挨拶は大切であること、命を守る大事なメッセージであることを伝えましょう。障害がある方、例えば歩行が困難な方は、地域の方に自己開示をしましょう。「お互い様」という言葉を忘れな

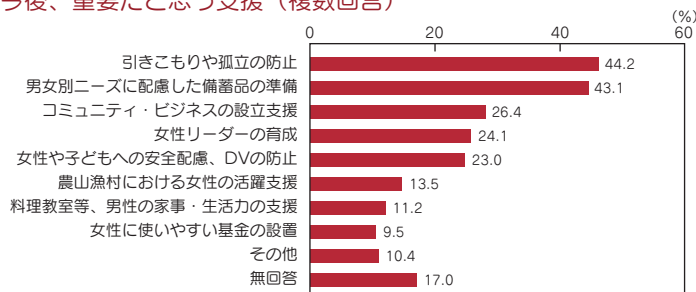
いで。いざという時に備え防災の視点から暮らしや生き方を捉え直し、いつも防災の視点を取り入れていく事が大切です。

女性プラザ祭パネル展

「男女共同参画の視点による震災対応と復興」より
避難所等における男女別の要望（被災3件の地方公共団体（複数回答））



今後、重要だと思う支援（複数回答）



※この調査は、内閣府が岩手県、宮城県、福島県の地方公共団体や関係機関、団体などを対象に実施したアンケート結果より抜粋したものです

女性セミナー／11月15日

（主催 北海道女性団体連絡協議会）

「世界と日本・北海道を考える ～元気の出る国際協力～」

講師 JICA北海道国際センター所長 丹羽憲昭さん

JICA北海道は、開発途上国の発展を目指して、研修員の受入れや道民の国際協力への参加（JICAボランティアなど）の支援などの事業を行っている団体です。男女平等参画を進める上でも国際社会の「平等・開発・平和」への貢献は重点分野であり、大変有意義なお話を聞くことが出来ました。



お茶会／11月14日

女性プラザ開館以来、毎年プラザ祭でお茶席を設けてくださるのは、裏千家茶道教授 堺ゆき子さんとそのお仲間です。

美味しいお茶とお菓子で、ホッと心を和ませていただき、毎年たくさんの方が楽しみにしています。



インフォメーション

情報提供フロアより

新着DVDソフトのご紹介

番号	タイトル	時間
D-40 D-41	介護の時代 仕事と介護を両立していくために 職場で働く方が介護に備えるための初DVD DISC1 仕事との両立 (30分) DISC2 介護保険制度を知る (23分)	53分
D-42	昭和を切り拓いた ろう女性からあなたへ 日本で“初”のきこえない女性によるきこえない女性のライフスタイル発信 第一章 ろう女性史の目的 第二章 昭和を生きたろう女性手話による自分史語り 第三章 現在、そして未来へ	60分

このDVDは、情報提供フロア内のブースで視聴できます。女性団体等には無料の研修会などでご利用される場合は貸出しも行っていきます。(送料は利用者負担)

ピックアップ書籍

平成25年度新着図書は173冊



北海道社会とジェンダー
労働・教育・福祉・DV・セクハラ
の現実を問う
札幌女性問題研究会 編
明石書店



飯館村は負けない
一土と人の未来のために
千葉悦子、松野光伸 著
岩波新書



ジェンダー白書9
アクティブシニアが日本を変える
北九州市立男女共同参画センター編
山田昌弘、香山リカ、辻哲夫 ほか 著
明石書店

図書を借りるには「利用者カード」が必要です。身分を証明する物を持参していただければすぐに発行します。道内にお住まいの方であれば、託送(送料は利用者負担)も行います。

- 「えるのす」「道立女性プラザ」に対するご意見、ご感想、ご要望などをお寄せください。
- 「えるのす」は女性(Lady)の頭文字と北(North)の造語です。

発行 / 北海道立女性プラザ(指定管理者: 公益財団法人北海道女性協会)
〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目 かでる2・7 6階 (011)251-6329・6349
【ホームページアドレス】 <http://www.l-north.jp/>
(休館日: 日曜・祝日・年末年始) (開館時間: 月~金9:00~21:00, 土9:00~17:00) *お問い合わせは9:00~17:00をお願いします。

昨年開催 大好評につき

ケアメン入門講座 開催のお知らせ!

ケアメンとは、親や妻などの介護を担う男性のこと。この講座は、今まで家事や介護の技術を身につける機会が乏しく孤立しがちな男性が、前向きに介護に立ち向かえるように、スキルアップと情報交換(支え合いづくり)の場として活用していただくための講座です。

日時 平成26年3月29日(土)
13:30~15:40

場所 かでる2・7
(札幌市中央区北2条西7丁目)
6階 北海道立女性プラザ交流フロア
610・620会議室

●福祉用具の展示・紹介

介護する人・される人にも、やさしい最新の福祉用具に実際に見て、触って、使ってみてください。

●男性介護の現状と介護保険制度について

講師: さっぽろ社会福祉士事務所
代表 大島康雄さん
(社会福祉士・精神保健福祉士)

●福祉用具を使った簡単介護技術講習

講師: キタライフ
代表 鈴木英樹さん
(理学療法士・介護支援専門員)

参加料: 無料

受付開始: 2月17日(月) から
(月~土 9:00~17:00)

定員: 30名 (パートナーの方も一緒にどうぞ)

申込: 電話でお申し込みください。
電話011-251-6349



介護技術講習

福祉用具展示

(昨年の様子)